

公益社団法人私立大学情報教育協会  
令和3年度第3回 基本調査委員会 議事概要

- I. 日時 : 令和3年10月20日(水) 17:00から19:00
- II. 場所 : 私情協事務局 (ZOOMによるTV会議)
- III. 出席者 : 山名担当理事、真鍋委員長、井上委員、今井委員、高木委員、片岡委員、  
今泉アドバイザー、端事務局長、森下主幹

IV. 資料

「私立大学教員授業改善調査 調査票(案)」

- (1) 学修者本位の教育 高木委員(案)
- (2) 対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応 今井、今泉委員、山名理事検討(案)
- (3) 教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方 井上委員(案)

V. 議事内容

- (1) 第2回での検討を踏まえて、各委員に分担して検討いただいた資料「私立大学教員授業改善調査 調査票(案)」の調査内容(案)について各委員に作成いただいた(1)から(3)について項目ごとに検討を行ない私立大学教員授業改善調査の調査票を以下のように確定した。

委員会で検討し・作成した内容

**私立大学教員授業改善調査の構成・項目(案)**

**I. 調査の目的**

変化の激しい予測困難な時代にあつて、未来を託す多様な人材の教育を負託されておられる先生方は、ニューノーマルでの教育をどのように受け止め対応すべきとお考えでしょうか。今回の調査では、学修者本位の教育実現への取組み、ポストコロナ社会における質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい学びの創出、学修成果の質保証に向けた教学マネジメントの確立に向けた関与の仕方、顕著な教育効果があるICT活用の取組みを披歴いただき、本協会から文部科学省、大学及び関係機関に施策への反映を呼びかけることにしています。

**II. 調査について**

- ☆ 回答は、本協会のWebサイト (<https://www.juce.jp/que2021/>) から 2022年2月28日(月)までに回答下さい。
- ☆ 回答情報の取扱いは、文部科学省の施策、大学の授業改善、本協会事業(学問分野別ICT活用の研究、各種大会等事業の案内、本協会機関誌の送付など)に限定しており、目的以外での使用はいたしませんので積極的にご協力願います。

**III. 調査の回答について**

- ☆ 以下の各調査項目について、記述または選択肢を選んでお応えください。
- ☆ 本調査では、先生が担当されている授業科目の中で、1科目を対象に回答下さい。  
例えば、長年担当されている科目、受講学生数の最も多い科目など、先生が主要科目とお考えの1科目についてお答え下さい。

☆ 対象とする科目は、講義、演習、実験、実習、実技とします。

**IV. 調査項目**

**1. 基本情報**

大学名科目名等について記述または該当する番号を塗り潰して下さい。

- (1) 科目名 { }
- (2) 科目の学系コード 「※学系コードを選択して下さい」

(3) 授業内容のキーワード

●① [                                    ]

●② [                                    ]

(4) 所属大学

●① 大学名 [                                    ]

●② 学部(昼間部のみ)      「※学部コードを選択して下さい」

●③ 短期大学(本科のみ)      「※学科コードを選択して下さい」

●④ 受講学生数 [            ] 人

(5) 対象年次

●① 大学              「※対象年次を選択して下さい」

●② 短期大学      「※対象年次を選択して下さい」

選択肢

( ①主に1年次 ②主に2年次 ③主に3年次 ④主に4年次 ⑤主に5・6年次(医・歯・薬系)

(6) 授業形態 「※対象年次を選択して下さい」

●① 講義 ●② 演習 ●③ 実験 ●④ 実習 ●⑤実技

## V. 調査内容 (案)

### 1. 学修者本位の教育(個々人の可能性を伸長する教育)の実現を目指す対応・取組みについて、①～⑤の選択肢から最も適当なものを選んで下さい。

(1) シラバスや授業で「何を学び、身に付けることができるのか」(LOs)を明確にする。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(2) ポートフォリオ等で理解度や成長度を把握し、対面や学修管理システム(LMS)等で個別に教育・学修指導を行う。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(3) TA や SA による学修支援を対面や遠隔(ICT)で行う。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(4) 授業中や授業後に学修者同士で授業内容を確認できるようにするため、話し合いを通して、教え合い、学び合う機会を対面やLMS等で提供する。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

**(5) 事前学習と対面・遠隔で行う「反転授業」に重点を置き、授業は到達度の確認、成果の発表、振り返りの場とする。**

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(6) 授業を社会課題等の解決に連動し、学修意欲の向上と主体性を促進する。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(7) 学修者の興味・関心のある科目を開設し、学内や学外で学修成果の発表・評価を行う「場」を設けて、対面や遠隔(ICT)で提供する。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(8) 卒業後、社会人として役に立った授業体験を対面や遠隔(ICT)で紹介し、学びの重要性を気づかせる。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(9) 学修者(海外留学生、障害者等)の環境に応じて、対面授業と遠隔(ICT)授業を行う。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(10) 不安・悩みを抱える学修者に教職員が連携し、対面や遠隔 (ICT) で個別に相談・助言を行う。

① 非常にそう思う ② そう思う ③あまりそう思わない ④そう思わない

(1 1) 学修者本位の教育、学修者の立場に配慮した取組みの重要性について。

- ① 非常にそう思う ② そう思う ③ あまりそう思わない ④ そう思わない

(1 2) 上記以外の対応・取組みがあれば、40 字以内で記述下さい。

(40 文字以内で記述下さい)

2. **ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応について、①～④の選択肢から重要性の受け止めについて一つ選んで回答して下さい。**

(1) 授業は対面を中心とするが、理解度・成長度に効果が期待できる場合は遠隔(ICT)によるオンデマンド・リアルタイム配信を積極的に導入する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(2) 事前学修を遠隔(ICT)で行い、対面で意見交換を行う反転授業を充実する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(3) 企業・地域社会などの課題分析を遠隔(ICT)で行い、そのエビデンスをもとに対面で深い議論を行う問題発見・課題解決型学修を推進する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(4) 幅広い知識の獲得は遠隔(ICT)で行う一方、物事を多角的に捉える訓練のためのアクティブラーニング(AL)は対面で推進する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(5) SDGs 等未知の問題解決の演習は対面で行い、時間と場所の制約を受けない意見交換解決策の発表・評価は遠隔(ICT)で推進する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(6) 学びの成果を地域社会や企業に応用・活用する社会実装教育は、対面と遠隔(ICT)の両方で推進する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(7) 学びの国際通用性を高めるため、対面と遠隔(ICT)でグローバルな国際連携教育を推進する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(8) デジタル技術(VR、シュミレータ等)で実験・実習・実技の疑似体験を訓練し、対面で安全な実体験教育を実施する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(9) 長期インターンシップなどの社会体験教育は、対面と遠隔(ICT)の両方を推進する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(10) 学びの成果の発表・評価を行う際、学内者は対面で、学外者は遠隔(ICT)から参加する、コンペティションを推進する。

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(1 1) **ポストコロナ社会における学修の質の向上を目指した対面と遠隔を組み合わせた新しい教育の対応について**

- ① とても重要 ② 重要 ③ それほど重要ではない ④ 情報がなく判断できない

(1 2) 上記以外の対応があれば 40 字以内で以下に記述して下さい

(40 文字以内で記述下さい)

3. **学修の成果を学修者が実感できる教学マネジメントの確立に向けた取組みについて、ご自身の関与の仕方や現状認識として最も近いものを1つ選んで下さい。**

(1) 3ポリシーと担当授業との関係性や整合性について

- ① 取組んでいる ② 継続性に課題がある ③ 確認の予定 ④ 確認の予定はない

(2) 担当授業の達成状況を点検・評価する取組みについて

- ① 適宜フィードバックし振り返りを促す ② 期末試験等で振り返りを促す

③ 特に取組んでいない

(3) 学修ポートフォリオや授業評価アンケートの活用について

- ① 自己点検や授業改善に活用 ② 活用する予定 ③ 活用の予定はない

(4) 遠隔(ICT)での試験実施方法、対面と組み合わせた新たな学修評価方法の検討について

- ① 取組んでいる ② 取組む予定 ③ 予定はない

(5) 教育改善に向けたオープンな意見交換(学生・教職員・学外関係者)について

- ① 参加している ② 今後参加したい ③ 参加の予定はない  
 (6) 学部・学際横断的な教育の推進を目指した、教育プログラムの編成、授業科目の統合・調整について

- ① 参加している ② 今後参加したい ③ 参加の予定はない  
 (7) 教育の質向上のためのFDの充実・高度化（遠隔(ICT)による研修機会の拡大、研修方法や内容等）の検討について

① 取組んでいる ② 取組む予定 ③ 予定はない

- (8) 上記以外で取り組みたい検討項目や課題について（40字以内で記述下さい）

（40文字以内で記述下さい）

- (4) 現在の授業でICTを活用して顕著な効果をあげている事例があれば、授業科目名、授業内容・方法・効果の概要を40字以内で記述してください。なお、Weサイトに教材、授業現場等の関連情報があればURLを記載してください。

（40文字以内で記述下さい）

URL (http://

- (5) 5年先の授業でICTを活用して顕著な効果が期待できる計画が考えられる場合も同様に概要を40字以内で記述してください。

（40文字以内で記述下さい）

URL (http://

### 3. 回答者情報

大学名	
学部名	
学科名	
職 位	<input type="checkbox"/> 教授 <input type="checkbox"/> 准教授 <input type="checkbox"/> 講師 <input type="checkbox"/> 助教
氏 名	
e-mail	
携帯電話	

### 4. 学系コード表

人文科学系、社会科学系、理学系、工学系、情報科学系、農学系、保健系、生活・家政系、教育系、芸術系、教養系

### 2. 今後の進め方

- (1) 本日検討した内容をメールで確認・修正見直しを行い、本年度の調査（案）として理事会に報告する。  
 (2) 理事会報告後、11月29日の臨時総会で報告、調査協力をお願いする。  
 (3) 12月8日には調査依頼を加盟大学に発送し調査を開始する。

### 3. その後の修正

12月13日の理事会で検討した結果以下の部分を修正した。

修正前

3. 学修の成果を学修者が実感できる教学マネジメントの確立に向けた取組みについて、ご自身の関与の仕方や現状認識として最も近いものを1つ選んで下さい。

修正儀

3. 学修の成果を学修者が実感できる教学マネジメントの確立に向けた取組み状況について、大学の方針ではなく、先生が担当する授業との関係で選択肢から一つ選んで回答して下さい。